

日本イスラエイド・サポート・プログラム

2014 年次活動報告書

1. 背景

2011 年 3 月 11 日、日本の東北地方に強い地震と津波に襲われ、沿岸部の人々の命とインフラは甚大な被害に見舞われた。行政機関や自治体などは緊急救援を急いだ。イスラエイドの第一陣救援隊は地震 4 日後に現地に入り、救援物資の配布、家の掃除、子供に優しい環境づくりと学校の再建を実施した。この活動期間中に現地における心的外傷後ストレスや精神的ケアの需要が大きな懸念点となり、当団体は日本イスラエイド・サポート・プログラム（JISP）を発足させた。

以下、JISP の 4 つの柱プロジェクトに基づいて立ち上がった企画の評価です。

1. 「ヒーリング・ジャパン」：心的外傷後ストレスを受けた人々の精神的ケアを行う専門家の育成
2. 「東北の声」：災害の被害者、または被害者の関係者のための精神心理のサポートサービス
3. 「東北の未来に目を向けよう」：若者のためのエンパワーメント、人材育成と生活自立のための訓練
4. 「ストーリーテリング・プロジェクト」：東日本大震災後の地域サポート活動の物語分析

各企画の発足以来、大きな進展を遂げた。現地の関係者とのパートナーシップを組みながら、物語と証言集め、それから現地の人材育成に貢献した。

2. 2014年の功績

2014年には東北地方に1200人以上の人に直接関わることができた。

以下詳細になる。

1. 「ヒーリング・ジャパン」

災害による心的外傷後ストレスを受けた人々の精神的ケアを非言語的テクニックを用いて行うプロフェッショナルの人材育成の集中訓練。

ヒーリング・ジャパンは理論的なカリキュラムと応用性を重視した多角的プロジェクトで、2014年には講義やワークショップを通して795人の顧客と直接関わることができた。

・ 当企画の更なる効果促進

当企画の4年目を迎えて、災害支援者とプロフェッショナルの長期的訓練が増加した。現地のパートナーとの協力で、東日本センター、学校カウンセラー、アートを使って地域をサポートするNPOなどの場所で月1回当企画の訓練を実施している。

・ 生存者のセルフケア

当企画の参加者は当団体のイスラエル講師による様々な表現セラピー（経験的学習法）を体験する。（アートセラピー、ドラマセラピー、サイコドラマ、ムーブメントセラピー、ビビリオセラピーなど）表現セラピーとグループワークへの基礎的な理論的紹介を含む。

2014年11月、陸前高田にてタミー・ガヴロン氏による現地の災害支援者とプロフェッショナル向けのアートセラピーワークショップ。

2014年8月にイエフディット・リヴコ氏が現地のプロとトレーニングワークショップに参加している

2. 東北の声

東日本大震災を乗り越えてきた人々の経験を記録し、その経験と教訓を残し、そしてそれを共有する人々のコミュニティーを作るプロジェクト。

- ・ 石巻での証言集めと地域アーカイブプロジェクトの発足

この過去の1年間で石巻と気仙沼で60のビジュアルな証言が集まった。証言の動画は災害前、災害中と災害後の生活という内容。JISPは石巻の博物館（石巻ニューゼ）と協力し、2014年3月29日に当博物館に初めての地域アーカイブを作った。現在では石巻で行われた10つのインタビューが残っており、地域理解を促進している。

- ・ 当プロジェクトのアドバイザーであるアミア・リーブリッチ教授が8月に来日

30人の地域リーダー、学者、それから災害支援者は当プロジェクトの3つのライフストーリーのインタビューワークショップに参加した。その結果、現在宮城県多賀城市の福祉部と協力し、地域開発のプロジェクトを企画している最中。当プロジェクトは災害生存者に避難生活を終え、公営住宅に引っ越してから新しい近所の人にインタビューできるように、ライフストーリーインタビュー方法を教えている。

- ・ 2014年に学術研究が拡大した

いとうたけひこ教授と明治学院大学の井上孝代名誉教授は心的外傷後成長の研究を進めるため、東北の声の資料と結果を各自の研究に取り入れている。日本とフランスの学会で10回以上発表されている。

- ・ ネット上の存在感が大きくなった

ネット上での学習法は2014年に始まった。意識向上と教育のためのインタビューやストーリーをまとめるウェブサイトができた。現在、当ウェブサイト（voicesoftohoku.org）の登録者数は数千人を超えている。

VOT の公式サイト (<http://voicesoftohoku.org/>) が立ち上がった。

2014 年 3 月、石巻 VOT アーカイブの開幕イベントにて

2014 年 8 月、仙台のメディアテークにてリーブリッチ教授がライフストーリー・インタビューワークショップを行った。

3. 東北の未来に目を向けよう

東北の若者にリーダーシップスキルを身につけ、経済成長や雇用創出のための実践的なノウハウを教えるプロジェクト

- ・ 双葉市からの高校生避難民が運営しているドキュメンテーションプロジェクト

学生たちは東京にあるスウェーデン発のカメラメーカー、ハッセルブラードで撮影の集中講義ワークショップに参加した。そこで習ったスキルと技術を活かして高校時代の最後の数ヶ月を写真に残した。完成した写真は春に当学校の卒業式、それから東京、原宿のハッセルブラード展示会場で展示される。

- ・ 「Points of You」(POY) との新しいコラボができた

JISP は「POY」という教育ツールを使い、東北の高校生のために長期的プログラムを提供する。

双葉市から避難した高校生たちは2014年10月に撮影ワークショップに参加し、高校時代最後の数ヶ月を記録した。

4. ストーリーテリング

世界中で地域サポート活動について 6 万以上のストーリーを記録しているグローバル・ギビング・ストーリーテリング・プロジェクト (GlobalGiving Storytelling Project) の一貫として、JISP による日本のストーリーテリングチームは 2013 年 7 月から東日本大震災で被害を受けた東北の人々の中から 2,812 のインタビューを集めている。

被災地の人々と一緒にボランティアする：当ストーリーテリング・プロジェクトは被災地の人々のサポートをし、更なる支援のための情報を集めている。地域再生に励んでいる 803 の団体と個人の話を共有している。

英語と日本語でブログ公開中：当チームのブログ（現在 43 記事）をお読みください（<http://ameblo.jp/japanstorytelling>）

簡易アンケートが作成された：当アンケートには以上の統計に含まれない約 400 のストーリーが記録されている。東北において現地の人々を助ける面白い企画などありませんか？是非こちらの 3 分アンケートに記入してお知らせください。（<http://www.basileis.org>）

プロジェクトディレクターのキース・ゴールドスタイン氏が東北の復興支援の活動をしている

3. 2014年の挑戦

東日本大震災が4年目を迎え、支援団体の人事部は大きな変化を見せている。JISPも例外なく、日本人スタッフの人事異動が行われた。人事異動による影響を軽減するため、クラウドサービスの容量を増やし、情報共有の取り組みを改善した。以後の人事異動をよりスムーズに行い、JISPの最大限の効率性を引き出すことにも繋がるだろう。

4. 今後の予定

・ JISP

現在の3つのメインプロジェクト：ヒーリング・ジャパン、東北の声とユースリーダーシップを現地の現状とニーズに合わせ、ストーリーテリング・プロジェクトを完遂し、研究結果を有効に活かす。

・ JISP トラウマケア及び緊急救援国際センター (JICTER)

日本の優れた学者によって引率される当センターは2015年4月に発足される予定。当センターではテーマ別に現地のプロフェッショナルのための集中講義プログラムを行い、それから表現セラピーを用いてトラウマケアの高度知識を提供する。

・ JISP の影響

「ここで習ったスキルは自分のコンサル、セラピー、トレーニングとワークショップにも活かせる気がする」

(2014年11月にアートセラピーの参加者より)

「自分の人生について習うきっかけを与えてくれた。ありがとうございます。」

(2014年8月にライフストーリー・インタビューワークショップの参加者より)

「アートセラピーの知識を身に付いただけでなく、セルフケアの大切さも学べた。とても癒された。」

(2014年11月にアートセラピー・セルフケア・ワークショップの参加者より)